

# 一人一人を確実に伸ばす授業の創造

## — 確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする児童の育成 —



- 学校名 春日部市立上沖小学校
- 所在地 春日部市大沼5丁目44番地
- TEL 048-736-3710
- E-mail [kamioki@educet.plala.or.jp](mailto:kamioki@educet.plala.or.jp)
- URL <http://www.kamioki.av-center.kasukabe.saitama.jp/>

### 1 研究主題

- (1) 研究主題 一人一人を確実に伸ばす授業の創造  
～確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする児童の育成～
- (2) 研究主題設定の理由
  - ア 学校教育目標との関連から  
学習指導要領、「かすかべっ子 はぐくみプラン」の趣旨に沿い、確かな学力の育成をめざすため、校内課題研修を推進し、日々の授業の中で実践しながら学習を充実することが必要である。そのためには、児童の学習意欲を向上させ、繰り返し学習することで基礎基本を定着させるとともに、授業内容を十分に理解し深めることが重要である。
  - イ 児童の実態から  
全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査等の結果や日常の学習の様子から、よい点として、「基礎基本の定着は一定水準を保ち、読書の習慣が身につけていること」、「ペアやグループなどの話し合い活動に、意欲的に取り組んでいること」、「学習のきまりや規律ある態度が校内で共通理解が図られた結果、定着していること」が挙げられる。また、話し合い活動の中で、「要点に注意しながら聞いていること」、「伝えたいことを選んで話そうとしていること」も挙げられる。しかし、改善すべき点として、「自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝えられないこと」や、「学習活動の場に合わせて他者と関わることが苦手であること」が挙げられる。また、数学的な考え方（思考力）の面に課題がある。

### 2 研究の実践

- (1) 学び合い学習におけるめざす児童像
  - ア 課題に対して解決するための自分の考えをもっている子
  - イ 自分の考えを伝えられる子
  - ウ 友だちの考えを自分の考えと比べながら聞ける子
  - エ 自分の考えを振り返っている子
- (2) 研究の仮説と授業の重点
  - ア 仮説1  
自分の考えをしっかりともち、課題解決に向かって意欲的に解決する場

を設定すれば、自ら学習する児童が育つだろう。

- ・基礎基本の徹底 ～日常の繰り返し学習の充実、話型の定着
- ・意欲を高める工夫

イ 仮説2

自分の意見を表現し、他と比較しながら聞く話し合い活動を続けていけば学び合う姿勢が身に付くであろう。

- ・思考ツールの活用 ～思考の見える化、話し合いの活性化
- ・個や他との関わりで ～異同を見つける、関係づける、よさを見つけ合う

ウ 仮説3

学習を振り返り、自己評価や相互評価をする学習を積み重ねれば、確かな学力が身に付くであろう。

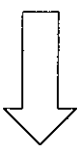



- ・自分の学習を振り返る習慣 ～評価の観点を明確にした授業  
～自分の変容、他者からの学び、他者のよさを認めるなど
- ・学習の蓄積～ポートフォリオ化
- ・互いを評価し合う場面の工夫 ～相互評価

(3) 校内課題研修「考え、話し合い、学び合う学習」の推進

ア 児童の実態より、算数を中心に研究。(小中連携も含む)

イ 学年ブロック部会(低・中・高学年の3ブロック)

- ・学び合う学習の手法を取り入れた授業展開の研究
- ・考え、話し合い、学び合う学習の学習過程

自己との対話を重ねること	つかむ (見通す) 	①問題提示 ②解決方法の確認 ③課題提示	※分かっていること、聞いていること ※どのような考えで解けるかの予想 ※学習課題の把握
他者と相互に関わること	考える (取り組む) 	④自力解決 ⑤練り上げ	※個人での思考ツールの活用 ※多様な思考での解決 ※グループ、全体での話し合い ※思考ツールの活用
自分や集団の考えを発展させ、共に実践に関わること	話し合う 学び合う 	⑥まとめ ⑦習熟の確認 ⑧振り返りカード	※個人のまとめ、全体のまとめ ※適用問題に取り組む ※自己評価・相互評価
	まとめ (振り返る) 		

ウ 専門部会

○授業研究部

- ・思考ツールの活用(場面、適したツール)
- ・ペア、グループ、全体など話し合いの充実(話し合いマニュアルの活用)
- ・言語活動を積極的に取り入れた授業

- 学習環境部
  - ・学習内容が分かる掲示 ～算数コーナーの充実
  - ・思考ツールを活用したワークシート作成
- 調査統計部
  - ・効果検証 ～テスト作成・アンケート調査

エ 話し合い活動の充実、思考ツールの活用

- ・思考ツール活用を活用した授業

(平成28年2月10日(水) 研究発表会開催)

①国語 1年

ふたりで かんがえよう  
「これは、なんでしょう」

- ※ペア学習
- ※イメージマップ



②算数 3年

「かけ算の筆算を考えよう」  
かけ算の筆算(2)

- ※Yチャート～個人の考え
- ※Yチャート～全体の話合い



③道徳 5年

「サッカー大会」

- ※ベン図
- ※モラルディスカッション



④英語活動 6年

Lesson6 Let's go to Italy.

- ※ウェビングマップ



オ 年間指導計画への学び合い学習の位置づけ

算数2年 年間指導・学び合う学習計画				
月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動 ○は、思考ツールの活用	学び合う学習 【思考ツール】※活用意図
4	1. ひょうとグラフ 2時間	1	・絵を見て、育てたい野菜ごとにグラフにまとめる。	
	○身の回りにある数量を分類整理して、グラフや一次表に表したり、それらを読み取ったりすることができる。	2	・育てたい野菜ごとの人数を数え、表にまとめる。 ・グラフや表を読み、そのよさについて話し合う。	
	☆おぼえているかな? ○既習内容の理解を確認する。		・「おぼえているかな?」に取り組む。	
	2. たし算のひっ算 10時間	①	・プロローグ ・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・25 + 14の計算の仕方を考える。 ・各自の方法を発表し、検討する。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。	①【Yチャート】 ※各自の方法を発表し、異同を検討させる。  $25 + 14 = 39$
	○2位数の加法計算の仕方を考えることを通して、加法の筆算の仕方を理解する。	2	・30 + 24の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 ・32 + 4の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。	
○2位数+1、2位数=2位数(繰り上がりなし、空位、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	3	・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・37 + 28の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。		
○2位数+2位数=2位数(繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	4			
	5			

(4) 業前時間の活用

- ア 国語タイム（系統的な短作文、該当学年の漢字の書き取り・辞書の活用など）
- イ 読書タイム（個に応じた読書活動、読み聞かせ・読書マラソンなど）
- ウ 計算タイム（計算技能の習熟、検証テスト、補習など）

(5) 家庭学習（家庭との連携）

- ア 「家庭で学習に向かうよりよい生活習慣づくり9ヶ条」の配布
- イ 家庭学習のしおり」の配布
- ウ 家庭学習ノートの特検
- エ 音読カードの特検

3 成果と課題

(1) 成果

- ア 意識調査、アンケートを通して
  - ① 「友達の考えを聞くことが楽しい」、「自分の考えを話すことが楽しい」の割合が増えた。
  - ② 「自分から進んで学習できる」、「やる気がでる」の割合が増えてきた。
- イ 「思考ツール」を活用した授業を行うことで、児童の意見を言う機会が増えたり、話し合いが活発になったりした。
- ウ ペア、グループ等の話し合い学習が自然とできるようになり、楽しく学び、理解することでうれしさを実感した児童が多くなった。
- エ 相手と自分の考えの相違を考えながら話し合い、違う考えを認め合う学習ができ、授業のねらいを達成できた。
- オ 自分で考えるのが苦手で、振り返りカードやノートにも何も書けずに真っ白な状態であった児童が、思考ツールの活用で自分の考えや友だちの考えを受け入れ、まとめることができた。
- カ 振り返りカードの記述から、「進んで考えた」「よく理解できた」と答えた児童が多かった。
- キ 思考ツールの効果として
  - ① 興味関心が高まる
  - ② 課題意識が強くなる
  - ③ 考えが見えて、話し合いが進む
  - ④ 授業が分かりやすくなる

(2) 課題

- ア 学び合う学習の効果検証の仕方
  - ① アンケート、意識調査
  - ② 自己評価や相互評価の工夫
- イ 一人一人の具体的見取り
  - ① 見取る視点、方法
- ウ 教科、領域、単元、学習過程に合う思考ツールを模索し、有効性を確認する。